

第7話 ストーリー型カリキュラム導入による学習効果 -学習者の視点から-

- 熊本大学大学院教授システム学博士前期課程ではストーリー型カリキュラム(SCC)を導入している。
- SCCによるe-Learning教材の魅力向上についての研究(柴田喜幸 2008)を実施されている。
 - ・SCCについての学習効果を学習者視点から分析されていない。
 - ・SCCについての学習効果が現れていない点についての改善策を提示されていない。
- 必修科目「eラーニング概論」に着目して、分析を実施した。
 - ・ARCS動機付けモデルに基づき学習効果の主観的分析
 - ・GBSの7つの構成要素に基づき学習効果の主観的分析
 - ・学習効果と、学習効果が現れなかった点、学習効果が現れない点について改善策を提案した。分析結果から、学習者はSCC導入に対しておおむね満足感を得ている。

ARCS動機付けモデルによる学習効果

ARCS動機付けモデルを使用し、科目「eラーニング概論」におけるSCCを導入した結果

学習意欲	効果が現れている点	効果が現れていない点	改善策
注意	・SCCでの学習方法に対する驚きや興味	・ルーティン化した少し長文のメールで課題が提示されるのみ	・課題内容の明確化 ・動的なアニメーション効果の追加
関連性	・学習内容の可能性への気づき	・学習内容の活用情報が不十分	・将来における活用場面の提示
自信	・課題提出者からの学習方法における明確な指示	・課題評価者による再提出日の締め切り不明示	・学習者の再提出が極端に遅い場合のフォロー
満足感	・課題提出者からのコメント、評価		

GBSの7つの構成要素による学習効果

GBSの7つの構成要素に着目し、科目「eラーニング概論」におけるSCCを導入した結果

	効果が現れている点	効果が現れていない点	改善策
使命	・使命の指示による学習内容の明確化		
カバーストーリー	・ゲームに似た設定に対しての興味	・学習開始時のSCCに慣れていない不安感	・オリエンテーション科目でSCCの説明追加
役割	・明確な相関関係提示による課題の把握		
フィードバック	・課題評価者、アドバイザー、秘書からのフィードバック内容に満足	・問い合わせに関するフィードバックの速度に不満足	・週末のフィードバックの速度を事前に連絡
情報源	・課題回答に必要な基礎的知識の活用		
シナリオ操作	課題やタスクの学習達成が使命に直結		
学習目標	・課題やタスクを通じて、自然と専門家としてのスキルを取得		